

【佳作（環境生活部長賞）】

## 水を大切にするために

岩沼市立岩沼中学校  
二年 小山明桜

私たちは普段から水道水を利用していますが、安全で衛生的に水を利用できる人は、実は世界で決して多くはありません。世界の人口の約三分の一である約二十二億もの人々が安全な飲み水を使うことができないのです。また、世界の半分以上である約四十二億人が、学校や公園などの公共施設で整備された清潔なトイレを使うことができていないという事実もあります。飲み水とトイレの二つが整っていないと、人々の健康に大きな影響を与えたり、水汲みのために女性や子供の自由な生活が奪われたりするなどの問題が起こります。また、地球温暖化による大干ばつなどの異常気象や人口の増加による水の使用量の増加、生活レベルの向上による生活排水の増加などの影響で、これからも水が不足することが予想されています。さらに都市化による乱開発が進むと、水田が消失したり、水を蓄積していた森が減少したりするなど水源が破壊されることにつながりかねません。その結果、水不足がますます悪化していくとも言われています。

私が二歳の時に、東日本大震災が起こりました。そのとき、しばらく水道が使えなくなったそうです。私は小さかったので全く覚えていませんが、水のない生活はとても大変だったと聞きました。水を確保するために、父は市役所の給水所まで何度も自転車で行ったそうです。その水は料理や飲み物など口に入れるものに使って、トイレや手を洗ったりすることには、お風呂に溜まっていた水を利用せざるを得ませんでした。私の家にはたまたまお風呂に水を溜めていたので助かりましたが、お風呂に水を溜めていなくなったため、トイレを流すことができずに困った家もあったそうです。お風呂に水を溜めるには、とてもたくさんのお水が必要だったので、

震災直後はお風呂につかることをしばらく我慢し、体を拭くだけにして、洗面器に汲んだ水で髪を洗ったりしたそうです。父は水のありがたさや、普段無意識に多くの水を使っていたことを反省したと言っていました。日本は水が豊富で、水道の蛇口をひねればいつでも水が出てくるので、その便利さに慣れてしまっていたけれど、水が使えない生活になったことが、どうやったら水を使わずに済むかを考える良い機会になったそうです。私も、お風呂でシャワーを出しっぱなしにしている時があるので、節水に気をつけなければいけないと思いました。

そこで、改めて私自身が生活の中で節水のためにできることを考えてみました。

まず、水の利用方法を見直すことです。歯磨きや食器洗いなどに使う水を最低限に抑えていきたいです。例えば、シャワーや歯磨きするときには水を流しっぱなしにしないように気を付けたり、食器洗いや洗顔をするときは桶などに水を溜めて使ったりと無駄にしないようにしていきたいです。

次に、生活排水の汚れを減らしていきたいと考えました。例えば、シャンプーや洗剤を使い過ぎないことや汚れた食器は新聞紙で拭いてから洗うことなどを実践していきたいです。また、ジュースの飲み残しを減らすことも有効だと思います。なぜなら、醤油十五ミリリットルを捨てた場合、魚が棲めるくらいきれいな水に戻すためには、お風呂二杯半分に当たる四百五十リットルの水が必要になるからです。

もしも、日本も水不足になってしまったら、とても不自由で大変な暮らしになってしまいます。その前に、深刻な水不足にならないように、今の危機的な状況にどう対応していくか、真剣に考えていくことが私たちには大切だと思います。